



熊本地震から10年

2026年4月14日21時26分、熊本地方でマグニチュード(M)6.5の地震が発生し、熊本県益城町で震度7を観測しました。その約28時間後の4月16日01時25分、同じ熊本地方でM7.3の地震(この地震が本震と定義された)が発生し、熊本県西原村と熊本県益城町で再び震度7を観測しました。このように2日間のうちに同一地域で2度も震度7が観測されたのは、気象庁の観測史上初めてのことでした。4月14日のM6.5の地震の発生以降、大分県中部や熊本県阿蘇地方でも多数の地震が発生するなど、地震活動域は熊本地方から阿蘇地方、さらに大分県中部にまで帯状に広がりました。気象庁はこれら一連の地震活動を「平成28年(2016年)熊本地震」と命名しました。熊本地震においては、震度1以上を観測した地震の回数が半年間で4,000回を超えるなど、余震回数が極めて多かった事が特徴でした。最終的にこの一連の地震活動による被害は、死者50人、関連死223人、負傷者2,809人となり、住家の全壊8,667棟、半壊34,719棟となりました。

熊本地震(2016)の被害の特徴(10年を振り返って)

熊本地震は、4月14日の前震(M6.5)と16日の本震(M7.3)という「連続する大きな地震」が特徴的でした。このため、被害は一度で終わらず時間をかけて拡大した点が大きな特徴でした。

① 災害関連死が多かった理由

熊本地震では、建物の倒壊などによる直接死よりも、避難生活の中で亡くなる「災害関連死」が非常に多くなりました。主な理由は以下の通りです。

- ・長期化した避難生活
- ・余震が非常に多く(震度6弱以上が何度も発生)、自宅に戻れない人が多くいた。
- ・車中泊の増加

避難所の混雑やプライバシー不足を避けるため、多くの人が車で寝泊まりしました。その結果、「エコノミークラス症候群(血栓)」による死亡が発生しました。

・高齢者への負担

環境の変化やストレスにより、持病の悪化や体調不良が増加。つまり、「揺れそのもの」よりも、避難生活の質の低さと長期化が命に関わったのが大きな特徴と考えられています。

② 建物被害の特徴

熊本地震の建物被害には、いくつか重要なポイントがありました。

(1) 同じ地域で繰り返し揺れた

前震で弱った建物が、本震でさらに大きな被害を受けました。つまり「2回の極めて強い揺れ」による累積ダメージが特徴であったと考えられています。

(2) 新しい耐震基準でも被害が出た事

熊本地震では、1981年以降の「新耐震基準」の建物でも、倒壊や大きな損傷が見られました。特に、接合部(柱と梁のつなぎ目)や施工不良がある建物で被害が目立ちました。つまり、設計基準だけでなく、施工の質や地盤条件も重要であることが明らかになりました。



(3) 地盤の影響(益城町など)

被害が大きかった益城町では、軟弱地盤や表層地盤の影響や活断層に近い強い揺れ(いわゆる直下型)により、局所的に非常に大きな被害が出ました。

まとめますと、熊本地震の教訓は大きく2つに整理できると考えています。

1:災害は「揺れ」だけで終わらない

→ 避難生活の質が生死を分ける

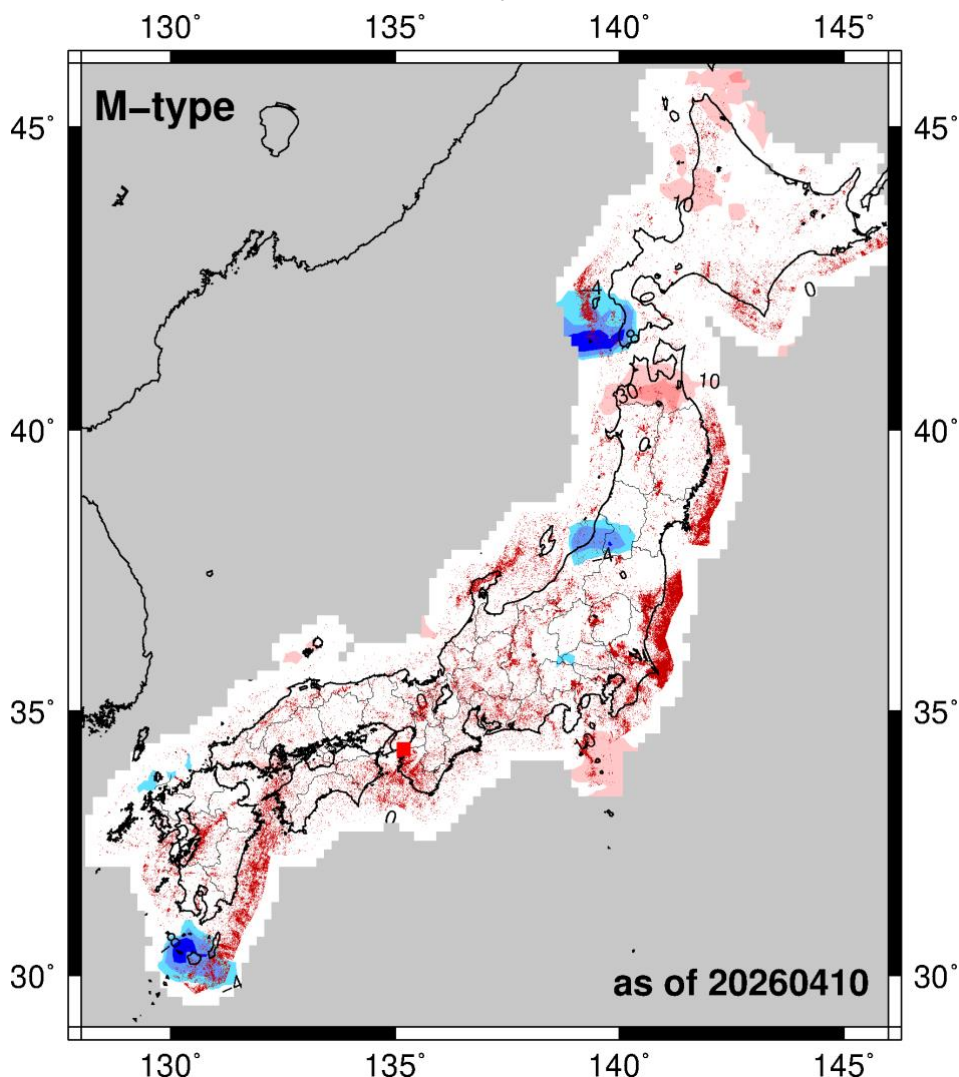
2:建物は「一度の揺れ」だけを想定しては不十分

→ 連続の地震や地盤条件まで考慮が必要である

熊本地震は、「連続する地震によって被害が拡大し、その後の避難生活で多くの命が失われた災害」であったとまとめる事ができると思います。また熊本地震以降、気象庁は余震という言葉をあまり使わなくなりました。余震というと最初の地震より小さな地震がイメージされますが、熊本地震では最初の M6.5 の地震のあと、M7.3 という極めて大きな地震が発生したためです。

日本列島陸域の地下天気図®

2月23日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は4月10日時点の M タイプの地下天気図をお示しします。

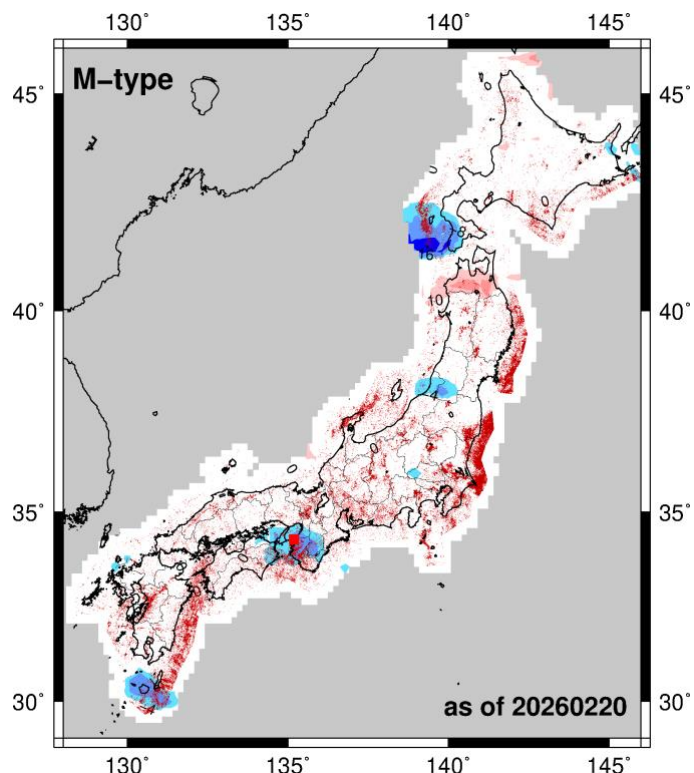
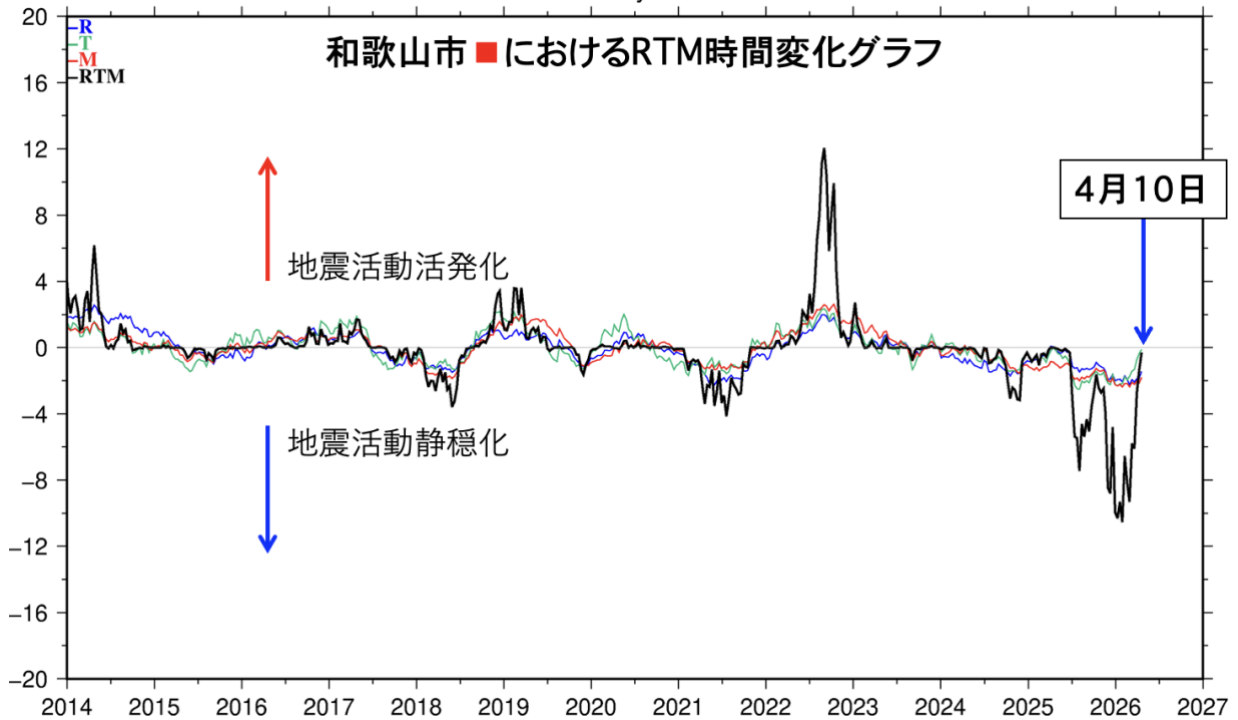




前回の解析からの最も大きな変化は、紀伊半島を中心に長らく出現していた地震活動静穏化の異常が消失した事です。これは当該地域で M6クラスの地震発生の準備が整った事を意味していると考えています。

今年1月6日に島根県東部で M6.4 の地震が発生しましたが、こちらは中国地方での地震活動静穏化がやはり解消した後に発生しています。これと同じ状況が紀伊半島を中心とした関西地方に生じているのです。

次にお示しするのが、和歌山市における RTM 時間変化のグラフです。4月になって急激に静穏化が解消した事がわかりました。今後の推移に注目しています。



参考

2月23日のニュースレターに掲載した
地下天気図
北海道西方沖の異常は継続中